

小学6年生と中学1年生の 英語学習に対する意識についての調査研究

師子鹿 元 美

An Analysis of the Survey Results of English Learning
in Elementary Schools and Junior High Schools

Motomi SHISHIKA

【要 旨】

大分県 Y 市では、平成18年から小学校を専任とする ALT (外国語指導助手) を市独自の予算で配置し、英語教育の充実を図ってきた。本稿では、Y 市の公立小学校と公立中学校の、それぞれ6年生と1年生を対象に行った英語学習についての意識調査の調査結果を分析した。小学6年生は英語活動についておおむね肯定的にとらえている一方で、中学1年生は英語学習についてはあまり肯定的にとらえていないことが明らかになった。また、小学校での英語活動が中学校での英語の勉強に役に立ったとはあまり思っていないことも示された。

【キーワード】

小学校外国語活動、英語学習、意識調査

1 はじめに

平成20年3月の学習指導要領改訂で小学校5年生、6年生に対して外国語活動が必修となった。平成21年、22年の2年間の試行期間を経て、平成23年4月から全国の小学校で、週1時間、年間36時間の外国語活動がおこなわれることになった。これまで総合的な学習の時間で英会話などの活動を取り入れていた学校も多く、大半で ALT 主導の授業が行われてきた。指導者の研修不足などの問題も多く、必修化となっても現場ではまだまだ先生方は不安を抱えたま

まで授業を行っているのが現状である。

研究指定を受けて研究を進めてきた学校や、「特区」で独自なカリキュラムを進めてきた小学校もある一方で、ALT が派遣される時間だけ英会話などの活動を行ってきた学校もあるなど、学校間で差がかなり見られるのが実情であった。このように学校間の差がある中でのスタートした外国語活動であるが、生徒はその外国語活動をどのように感じているのか、どのような活動を好んでいるのかなど、生徒の意識を必修化直前のこの時期に調査するのは意味があると考えられる。

2 研究の目的

本研究では、小学6年生が英語活動に対してどのように感じているかを調査し、英語活動が好きなのか、どの活動が好きなのか、英語活動を行うことでどのような意識の変化があったかを明らかにすることである。また、中学1年生が英語学習に対してどのように感じているかを調査し、さらに小学校における英語活動がどのように中学校での学習に影響を及ぼしているかを情緒面から明らかにすることである。

3 調査について

3.1 実施時期

2011年2月～3月

3.2 対象者：

大分県Y市の全公立小学校6年生332名と全公立中学校1年生293名

3.3 内容

小学6年生には、フェースシート4項目、英語活動に関する5段階尺度形式9項目と自由記述形式1項目から成るアンケートを実施。また、中学1年生にフェースシート4項目と英語学習に関する5段階尺度形式22項目からなるアンケートを実施。

4 調査結果

4.1 フェースシートについて

小学6年生へのアンケート調査では、まずフェースシートにおいて授業以外での英語学習の経験、習っている場所、習っている期間、外国での居住経験、国、期間について聞いた。有効回答者290名中75名が授業以外で英語を習っていることがわかった。内訳は男子41名、女子34名であった。1年以上習っている生徒は35名で、中には7年、8年と答えた生徒や4歳からという回答もあった。また外国での居住経験が

ある生徒は3名で、アメリカに2名（6か月と1年）と中国に1名（1年）であった。

中学1年生へのアンケート調査でも、小学6年生と同様にフェースシートにおいて授業以外での英語学習の経験、習っている場所、習っている期間、外国での居住経験、国、期間について聞いた。有効回答者291名中108名が授業以外で英語を習っていることがわかった。そのうち29名が中学入学後に授業外で英語を習い始めた。外国での居住経験がある生徒は1名で、イギリスに2年間であった。この生徒は塾で10年間英語を習っていると回答していた。

4.2 小学校の英語活動について一全体の傾向

小学6年生への質問紙では、英語活動をどのように感じているかについて9項目について5段階形式で尋ねた。9項目の質問内容と平均(M)と標準偏差(SD)は表1に示すとおりである。各項目は、3.01から4.29の間で推移しており、おおむねどの項目も肯定的に捉えられていた。

平均値の一番高い項目は2の「英語活動の中でゲームをすることが楽しい」で、一番低い項目は6の「英語活動をするようになってから、日本語により興味、関心を持つようになった」であった。

4.3 小学校の英語活動について一男女別比較

男女別平均値を示したものが図1である。男子の各項目は2.9から4.3の間で推移しており、女子の各項目は3.15から4.2で推移していた。特に質問項目6の男子の平均値2.9は、すべての平均値の中で一番低い値であった。男子の平均値が女子の平均値より高い項目は、質問項目1, 2, 3で、反対に女子の平均値が男子の平均値より高いものは質問項目4, 5, 6, 7, 8, 9であった。

表1 英語活動について (小学6年生)

(N=314)

	質問内容	平均	標準偏差
質問1	英語活動は楽しい	4.04	1.05
質問2	英語活動の中でゲームをすることが楽しい(ごっこ遊び、ロールプレイなどを含む)	4.29	0.98
質問3	英語活動の中でALTと英語で話しをすることが楽しい	3.65	1.10
質問4	英語活動の中で歌を歌うことが楽しい	3.33	1.18
質問5	英語活動をしているので、英語で話したり、聞いたりすることに慣れた。	3.47	1.21
質問6	英語活動をするようになってから、日本語により興味、関心を持つようになった	3.01	1.23
質問7	英語活動をするようになってから、日本の文化や日本人の考え方を外国の人々に伝えることが大事だと思うようになった	3.44	1.10
質問8	英語活動をするようになってから、外国の文化や外国の人々の考え方を理解することが大事だと思うようになった	3.69	1.08
質問9	外国の人と話す機会があれば、できるだけ英語で話したいと思う	3.85	1.33

4.4 小学校の英語活動について—授業外で英語を習っている生徒と習っていない生徒の比較

授業外で英語を習っている生徒と、授業外で英語を習っていない生徒についての平均値を示したものが図2である。質問項目1から9のすべての項目について、授業外で英語を習っている生徒の平均値が、授業外で英語を習っていない生徒の平均値を上回った。特に質問項目5「英語活動をしているので、英語で話したり、聞いたりすることに慣れた。」、質問項目8「英語活動をするようになってから、外国の文化や外国の人々の考え方を理解することが大事だと思うようになった。」、質問9「外国の人と話す機会があれば、できるだけ英語で話したいと思う。」についてその差が顕著であった。

4.5 小学校の英語活動について—地区別比較

Y市では特に英語教育の充実に向けて全市で取り組んできた。その政策の一貫として、平成18年から小学校で教えるALTを市の独自予算で雇用し、全小学校を3つの地区に分け、それぞれの地区に一人のALTを派遣している。

これまで学校や地区ごとにカリキュラムを組み、総合的な学習の時間における異文化理解などの活動の中で、ALTを中心に英会話などを行ってきた。移行期間中は英語ノートI、IIをそれぞれの学校の実態に合わせて取り入れ、初年度年間10時間、2年度は年間20時間の外国語活動を行い、23年度からの週1時間、年間35時間の英語活動の実施に向けて準備を進めてきた。

その地区別の調査結果を示したものが図3で

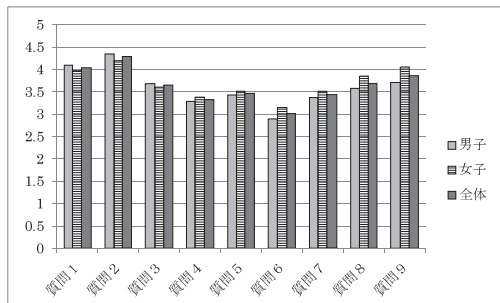


図1 男女別比較

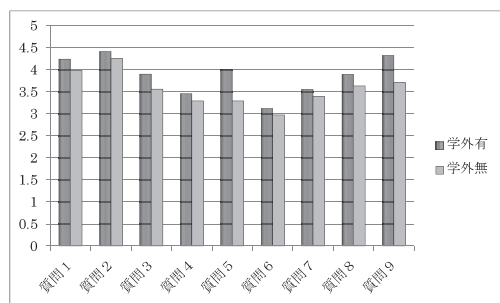


図2 授業外での英語学習の有無

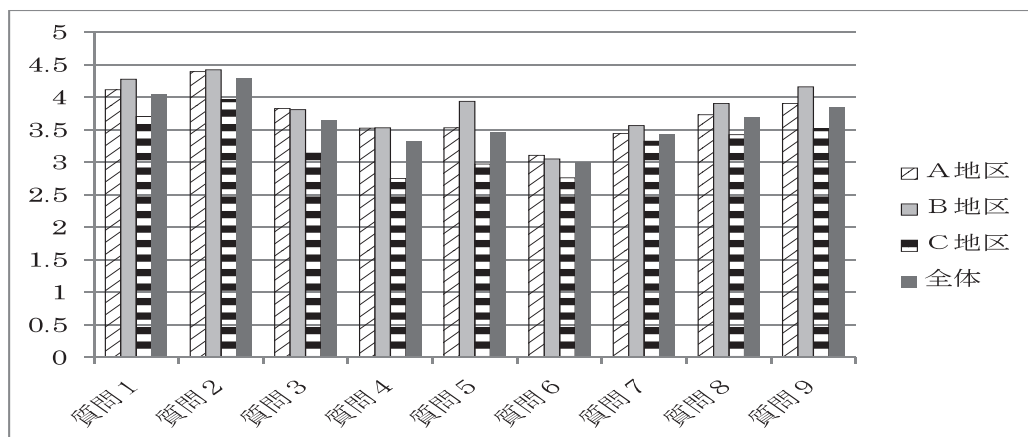


図3 地区別比較

ある。ほとんどの項目について、B地区の平均値が他の地区の平均値を上回っていた。特に質問項目5, 8, 9の平均値はその他の地区、又全体と比べるとその差が顕著であった。また、C校区のすべての項目の平均値が他の校区の平均値を下回っていた。

4.6 中学校の調査結果

中学1年生を対象に行った質問紙のすべての項目の平均値と標準偏差値を示したものが表2である。平均値は2.33から3.08の間で推移していた。平均値が一番低い項目は質問5「英語の授業で、ゲームやクイズをすることが好きである。」で、二番目に低い項目は質問19「中学校で英語を勉強する上で、小学校で行った英語活動が役に立っている。」であった。平均値が一番高い項目は、質問6「英語の授業で、英語の

歌を聞くことが好きである。」であった。

4.7 中学校の英語学習-カテゴリー毎の地区別比較

中学校の質問紙については、樋口(2007)を参考に7つのカテゴリーを設定し、各カテゴリーに1~6の質問項目を作成した。各カテゴリーの質問項目は表3のとおりである。

小学校のA地区の生徒が進学するA中学校、B地区の生徒が進学するB中学校、C地区の生徒が進学するC中学校別に、カテゴリー1について各項目の平均値を示したものが図4である。特に質問項目1「英語の学習が好きである。」について、A, Cの中学校の生徒の平均値がそれぞれ2.3と2.5であるのに対して、B中学校の平均値は3.7と突出していた。また、質問項目5「英語の授業で、ゲームやクイズを

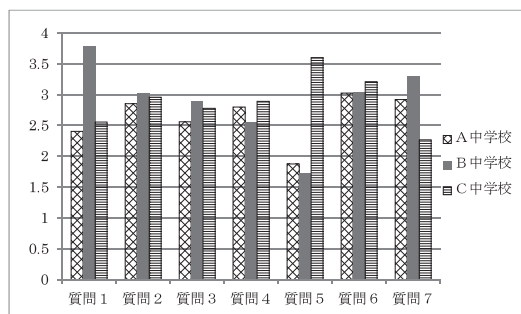


図4 カテゴリー1の平均値

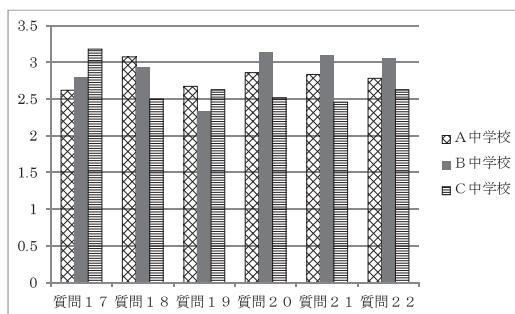


図5 カテゴリー4~8の平均値

表2 英語学習について (中学校)

(N=254)

	質問内容	MD	SD
質問1	英語の学習が好きである。	2.71	1.20
質問2	英語の学習の中では、どちらかというと聞いたり、話したりする活動が好きである。	2.91	1.21
質問3	英語の学習の中では、どちらかというと読んだり、書いたりする活動が好きである。	2.69	1.16
質問4	英語の授業で、ALTと話すことや、ALTの話す英語を聞くことが好きである。	2.78	1.06
質問5	英語の授業で、ゲームやクイズをすることが好きである。	2.33	1.33
質問6	英語の授業で、英語の歌を聞くことが好きである。	3.08	1.07
質問7	授業以外で、英語を他の教科よりもよく勉強する	2.81	1.23
質問8	間違いを気にせず、英語で話したり、書いたりする努力をしている	2.74	1.06
質問9	外国の人と話す機会があれば、できるだけ英語を使おうとしている。	2.81	1.12
質問10	授業以外で、英語を聞いたり、読んだりして自分の英語の上達に活かそうと努力している。	2.80	1.13
質問11	英語で自分のことを伝えたり、相手のことを尋ねたりするなど話す力をつけたいので、英語を勉強しようと思う	2.70	1.11
質問12	外国の文化や外国の人の考え方を理解したいので、英語を勉強しようと思う。	2.79	1.06
質問13	将来仕事をする時に英語が必要になると思うので、英語を勉強しようと思う。	2.67	1.20
質問14	学校の試験や大学入試で良い成績を取りたいので、英語を勉強しようと思う。	2.48	1.24
質問15	英語で手紙や電子メールを書いたりする力をつけたいので、英語を勉強しようと思う。	2.80	1.14
質問16	英語で読み物や雑誌を読んだりする力をつけたいので、英語を勉強しようと思う。	2.78	1.13
質問17	外国の人に英語で話しかけられたら、ジェスチャーなどを交えてでもコミュニケーションを図ろうとする。	2.81	1.13
質問18	外国の人と話したり、交流する機会があれば、できるだけ参加したい。	2.89	1.19
質問19	中学校で英語を勉強する上で、小学校で行った英語活動が役に立っている。	2.59	1.17
質問20	英語の勉強を通して、日本語により興味、関心を持つようになった。	2.82	1.17
質問21	英語の勉強を通して、日本文化や日本人の考え方により興味、関心を持つようになった。	2.78	1.06
質問22	英語の勉強を通して、外国の文化や外国の人の考え方により興味、関心を持つようになった。	2.79	1.13

表3 カテゴリー別の質問項目

	質問項目	質問項目
カテゴリー1	英語学習に対する関心・意欲・態度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
カテゴリー2	学習方略	8, 9, 10
カテゴリー3	学習動機	11, 12, 13, 14, 15, 16
カテゴリー4	コミュニケーションに対する態度	17
カテゴリー5	交流への関心	18
カテゴリー6	自言語・自文化への関心	20, 21
カテゴリー7	他文化への関心	22
カテゴリー8	小学校外国語活動との関連	19

することが好きである。」の平均値が3.6と他の2校に比べ突出していた。

さらに、カテゴリー4, 5, 6, 7, 8について各中学校別の平均値を示したものが図5である。特に質問項目20, 21, 22についてB中学校の平均値が3点代台で、他の2校より高かった。

4. 8 中学校の英語学習－カテゴリー毎の男女比較

カテゴリー1の質問項目1から7について、男女別の平均値を示したものが図6である。質問項目1の「英語の学習が好きである。」と質問項目7の「授業以外で、英語を他の教科よりもよく勉強する。」について男女別の平均値にほとんど差がなかった。質問項目1と7以外のすべての質問項目については、女子の平均値が男子の平均値を上回っていた。特に質問項目6の「英語の授業で、英語の歌を聞くのが好きである。」について女子の平均値が3.25と高かった。

カテゴリー4から8に含まれる質問項目17から22について、男女別の平均値を示したものが図7である。質問項目17, 20, 21については、男女の平均値にほとんど差が見られなかったが、質問項目18, 19, 22については女子の平均値が男子の平均値を上回っていた。特に質問項目18の「外国の人と話したり、交流する機会があれば、できるだけ参加したい。」について女子の平均値が3.08と高く男女の差も顕著であった。

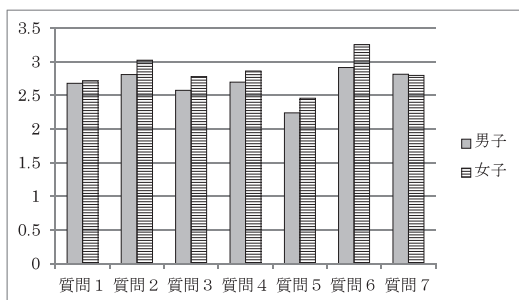


図6 カテゴリー1の平均値

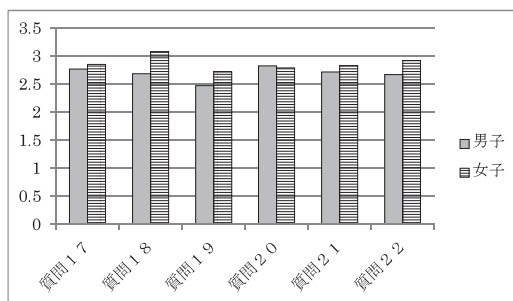


図7 カテゴリー4～8の平均値

4. 9 自由記述式回答内容

小学6年生への質問紙で、「英語活動について、こうして欲しいという要望（お願い）や、思っていることがあればなんでも書いてください。」という項目を設けた。56名から得られた回答内容を、「授業の内容について」「授業の進め方について」「指導者について」「授業の回数、時間数について」「その他」の項目ごとに分けたものが表4である。授業内容についての要望が圧倒的に多く、ゲームを増やして欲しいという要望が多く見られた。また、英語活動の回数や時間数を増やして欲しいという要望も多く出された。一方で、「ゲームより勉強をしたい」「英語を教えてほしい」「ひっきたいをかけるようにしてほしい」といった要望も見られた。

5 考察

5. 1 小学校の英語活動について

本調査では、A市の小学6年生は英語活動を楽しんでいると感じ、おおむね英語活動を肯定的にとらえていることが明らかになった。これは小学校における外国語活動のねらいである「体験的な学習」が十分に行われていることも一つの要因であると考えられる。平均値が一番低かった質問項目6の「英語活動をするようになってから、日本語により興味、関心を持つようになった。」は質問自体も小学6年生には難しいと思われるが、英語活動を通してどのように自国語に興味、関心を持たせていくかは今後の課題だと思われる。

授業外で英語を習っている生徒が全体の4割

表4 自由記述

<英語活動の内容について>
 もう少し、ゲームをしたい。
 もうちょっと単語を多くして欲しい
 もうちょとみんなとふれ合える遊びをしてほしい。
 英語活動のゲームをたくさんしたい。
 もっとゲームをふやしてほしい。
 訳をもう少し増やしてほしい。
 もっとみんなで遊びたい(英語に関する事)
 もっとゲームをふやしてほしい。
 ゲームをしてほしい。
 もっとゲームを増やしてほしい。
 私はフランスに行ったことがあります。世界の話し方が学びたい。
 ゲームを増やしてほしい。
 もっとたくさん話せるようになりたい。色々な国の言葉を知りたい。
 英語のいいかた
 ゲームの時間を増やしてほしい
 もっとゲームをしてほしい
 もっとあそびの要素を取り入れたものがたくさんほしい
 ハロウィンパーティーしたい。
 国名をあてるゲームがしたい
 つうやくをしたい!
 どんどん会話させる(みんなに色々言わせる)
 もっとゲームをふやしてほしい。
 ちょっとだけ書く練習とか、簡単な単語はかけるようになりたい。
 ローマ字などではなく、「ひっきたい」をかけるようにしてほしい。
 もっと、まじめにしてください。ゲームより勉強したいんですけど。
 英語の書きとりなどしてほしい。
 <授業の進め方について>
 発音分からないから、細かく分かりやすくおしえてほしい。
 ゲームの勝ち負けをなくしてほしい(英語ができない人がいるから)英語で歌を沢山教えてほしい
 日本語であとからやくしてほしいです。
 これからも、楽しく英語の授業をしてください!!お願いします。
 日本語で説明してほしい
 もっと、ゆっくりしてほしい。覚えづらい
 英語をいった後日本語をゆっくりいってほしい。
 もうちょっとみんなにきいてほしい。
 単語などを覚えるとき、ちょっとしたゲームをしてほしい。<指導者について>
 色々な国の先生に教えてもらいたい
 英語の先生は日本人の人で、女の先生がいい。
 先生を増やしてほしい。
 <授業の回数、時間数について>
 週に2回しかきてないけれど毎日きてほしいです。なぜならいろいろな行じをいっしょにできたりして英語を話す
 ずきかいがふえるからです。
 ATLの先生が毎日来てくれたら英語で会話する事が増えるから毎日来てほしい
 毎日学校に来てほしい。すれちがったとき話せるから
 毎日来てほしい
 毎日一時間ずつしたい
 毎日、学校に来てほしい。理由|先生と話す機会を作りたいから。
 毎日きてほしいです。わけはすれちがった時に英語ではなしたいからです。
 回数をもっと増やしてほしい
 週に3回ぐらいにはしてほしい。
 学校にできるだけ来てほしい
 毎日学校に来てほしいです。
 毎日学校に来てほしい。理由、日常的に英語がつかえるから
 英語の時間を長くしてほしい。
 週3回にふやしてほしい
 先生に毎日来てほしい
 なんとなく週に、2、3回は欲しい・1パターンな授業はいやだ
 もっと授業の数を増やしてほしい。高いレベルまでやりたい。小学校で、塾に行かずに、英検5級までとりたい
 <その他>
 外国の人をこの挟間小学校に連れてきてください。
 教科書がほしい。(家で見れるように)

近くいたことは、英語の必修化に伴って生徒や保護者の英語に対する意識が高まっていることを示していると思われる。また授業外で英語を習っている生徒が、英語を習っていない生徒より英語活動に対して全般的に肯定的にとらえていることが示された。このことは授業外で習っている生徒と習っていない生徒との、英語に対する慣れ親しみ度に差が出てくる可能性も示唆しており、今後の授業の進め方への配慮も求められるであろう。

自由記述では、授業の内容についての要望が圧倒的に多かった。特に、「ゲームを増やして欲しい」という要望をあげた生徒が多かったことは、生徒たちが飽きずにまだ行いたいと思うような活動作りを、先生たちが工夫して行っている結果だろうと思われる。また、英語活動の時間や回数を増やして欲しいという要望がとても多く出たことは、生徒が英語活動を肯定的にとらえていることを示していると思われる。

その一方で、「英語の勉強がしたい」という要望を出した生徒がいたことは、現在の小学校の英語活動の在り方について再考の余地があることも示唆されたと思われる。また、小学6年生という発達段階に照らし合わせると、「ひっききたいをかけるようにしてほしい」や「かきとりなどもしてほしい」といった要望がでることもうなずける。

5. 2 中学校の英語学習について

調査では中学入学後1年経過した1年生は、英語の勉強をあまり肯定的にとらえていないことが示された。小学6年生がかなり英語活動を楽しんでいたことからすると、この1年間で大きな変化が見られたことになる。小学校ではとても楽しかったゲームやクイズも、中学ではあまり好まない傾向が見られる。中学校では英語は教科となり、「勉強する」ものというように生徒の意識に変化が出てきたと思われる。

特に小学校で英語活動を行ったことが中学での英語の勉強に役に立ったと肯定的にとらえていない傾向が見られたことは残念なことである。「小学校の英語活動は楽しかったけど、中

学での英語の勉強には役に立たない」という意識につながっているのではないと思われる。中学校での英語学習にスムーズにつなげるために、小学校での英語活動の在り方を再考する余地があることが示唆されていると思われる。

また、B中学校の生徒が他の2中学校の生徒に比べ、より「英語の学習が好きである」と強く感じていることが示された。B地区の小学生も他の2地区に比べるとわずかであるが、英語活動についてより肯定的にとらえている傾向が示された。このことが中学校での英語学習に影響しているのか、他の要因があるのか興味深いところである。さらに、C中学校の生徒が他の2中学校の生徒に比べ、より授業でゲームやクイズをすることが好きである傾向が示された。平均値の差がかなり顕著であるので、C地区の小学校で行われているゲームやクイズの内容や頻度などについて調べるとともに、C中学校での授業で行われるゲームやクイズなどについても調べると興味深い結果が得られると思われる。

6 まとめと今後の課題

本調査研究において、小学6年生は小学校英語活動の中で行うごっこ遊びやロールプレイなどを含むゲームを楽しんで行き、英語活動を楽しんでいることが明らかになった。自由記述回答からも、「もっと英語活動をしたい」「もっとALTの先生と話したい」と思っていることが明らかになった。これは英語で自分の言いたいことが言えた、相手に伝わったというコミュニケーションの楽しさを実感している表れであり、学習指導要領にもある「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」が育っていることが伺われる喜ばしいことである。

その反面、「ゲームより勉強をしたい」「筆記体をかけるようにしてほしい」「簡単な単語は書けるようになりたい」という要望も少数ではあるがでていることは、小学6年生という発達段階からすると当然のことだと思われる。このことは、小学6年生の興味・関心にあった「聞

く・話す」活動をどのように作っていくのか、また、「文字指導」はどのようにあるべきか、「担任主導」の外国語活動で良いかなど、現在の外国語活動について再考の余地があることが示唆されていると考える。

また、中学1年生が小学校で行った英語活動が中学校での英語の勉強に役に立っているとはあまり思っていない調査結果は、これまで幾度となく言われてきた「何のために英語を学ぶか」という問いについて改めて考えるきっかけとなった。小学校外国語活動で感じた「英語を使う楽しさ」を、英語を使う必要性の少ないEFLの環境下でどのように中学校で継続させていくかを、小学校中学校のみならず英語教育に携わる人達が真剣に考えなければならない。

参考文献

- 文部科学省 (2004) 「小学校の英語教育に関する意識調査報告書」
- 橋口浩明 (2006) 「中学校英語科へ効果的につなげる小学校英語活動-中学校入学時の英語に対する実態調査から-」『小学校英語教育学会』第7号. 25-30.
- 樋口忠彦 (2007) 「小学校英語学習経験者の追跡調査と小・中学校英語教育への示唆」『近畿大学語学教育部紀要』7巻2号. 123-180.
- 北条礼子・松崎邦守 (2003) 「公立小学校における英語活動に関する意識調査：千葉県沼南町の小学6年生児童・中学1.2年生に対するアンケート調査をとおして」『日本英語児童教育学会研究紀要』第24号. 71-91.